

（様式 1）実施報告書

1 応募者情報

（1）応募者団体情報

団体名	大阪市
-----	-----

（2）都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

○指定の有無 有・無

○指定の内容

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

2 事業の概要

（1）全体概要

①事業の名称	大阪市における地域識字・日本語教育体制整備事業
②目的等	
1 目的	
平成 31 年 4 月「出入国管理及び難民認定法」改正による新しい在留資格の創設等によって、今後、在留外国人のさらなる増加が見込まれている。また、令和元年 6 月に施行された「日本語教育の推進に関する法律」では、基本理念として「日本語教育を受ける機会の最大限の確保」がうたわれており、外国人材の受け入れ・共生のための地域日本語教育を進めるため体制づくりを行うことが急務となっている。 本事業は、大阪市における識字・日本語学習体制の現状と課題を踏まえ、識字・日本語教室に対する支援の充実や人材育成、生涯学習センター・国際交流センター・NPO 団体等の関係機関とのネットワークの構築に取り組むとともに、今後、より増加・多様化が想定される学習ニーズに対応できる体系的・総合的な識字・日本語学習体制の構築をめざす。	
2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像	
【現在の状況：図示も可】	
大阪市では、識字・日本語の学習環境として、多様な活動が行われているが、各教室の設立経過の違いや、行政の所管部局が多岐にわたっていることなどにより、関係機関どうしの情報共有を含め、大阪市全体として有機的な連携等を行うための体制が十分に構築できていない。	

【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】

大阪市における識字・日本語教育に関連する部局（教育委員会事務局生涯学習担当、経済戦略局国際担当、市民局ダイバーシティ推進室、各区役所など）の横断的な連携とともに、関連施設・機関等（国際交流センター・生涯学習センター・NPO 団体等・日本語学校等）とのネットワークを構築し、今後、より増加・多様化が想定される学習ニーズに対応できる体系的・総合的な識字・日本語学習体制づくりをめざす。

（２）令和５年度事業の概要

①事業の期間	令和５年４月１日～令和６年３月３１日（１２カ月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	令和４年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が何度か生じたものの、ほぼすべての識字・日本語教室や事業について、感染防止対策を実施したうえで実施することができた。 また、「識字・日本語教育基本方針」の策定に向け、令和３年度に実施した「実態・ニーズ調査」の現状分析・課題抽出を踏まえ、方向性の検討、骨子案の作成や素案の策定などに取り組んだ。 多様な学習ニーズに対応するための新たな試みとして、令和５年度からのオンラインによる日本語教室の開設に向け、実施内容の検討や指導者養成などの準備作業を行った。
③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）	「識字・日本語教育基本方針」の策定に向けた検討作業を進める中で、大阪市の識字・日本語教育施策を中心的に担う、教育委員会事務局生涯学習担当および大阪国際交流センターの各所管事業の位置づけについて、一定の整理や役割分担を図ることができた。 基本方針については、当初、令和４年度中の策定をめざしていたが、関係部局との調整や方向性の検討に時間を要したこと、パブリック・コメント実施による意見聴取の機会を設けるとしたことなどにより、令和５年度に成案を確定することとなった。 （公財）大阪国際交流センターで開催する日本語教室についても、「識字・日本語教育基本方針」の策定に向けた検討を受け、初級者対象の体系的な日本語学習支援に注力し、会話練習を中心とした交流型の日本語教室については令和５年度より廃止する等の整理・統合を行った。令和５年度新たに開設するオンラインによる日本語教室については、日本語を初めて勉強する外国人を対象に開催する。
④令和５年度の目標	・「識字・日本語教育基本方針」の策定 ・日本語学習ニーズに対する対応方策（ICT 活用を含む）および識字・日本語学習環境の拡充に向けた検討 ・識字・日本語教室に対する支援の充実や人材養成 ・就労者に対する日本語教育のあり方検討 ・識字・日本語教育施策の推進に向けた体制の整備

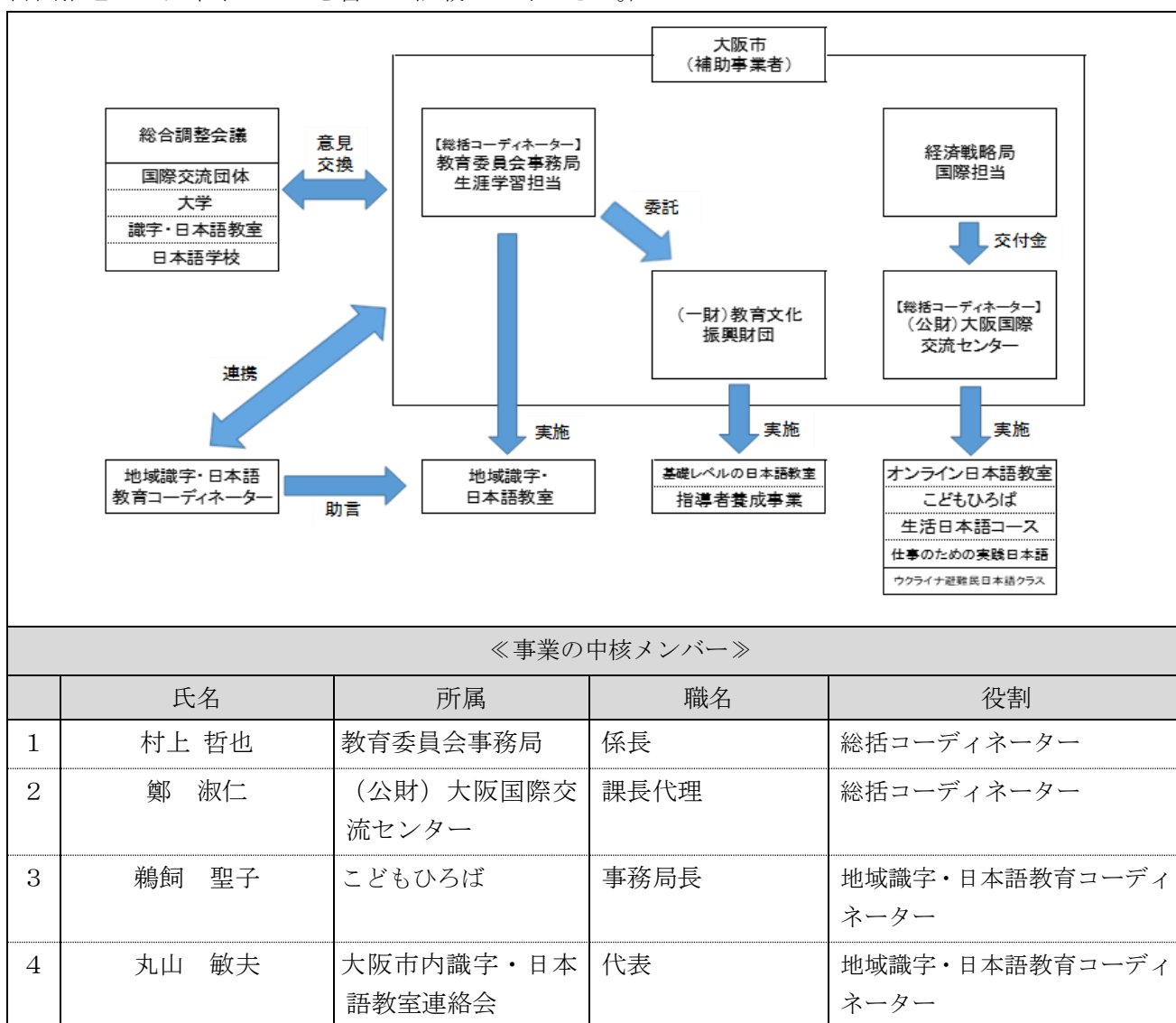
⑤令和5年度の主な取組内容

大阪市における識字・日本語学習体制の現状と課題を踏まえ、上記目標の達成に向けて、下記の内容に取り組む。

- ①「識字・日本語教育基本方針」の策定に向けたパブリック・コメントの実施・成案化に向けた検討
- ②識字・日本語学習体制の充実にに向けた具体的取組のための予算確保に向けた調整
- ③識字・日本語教育人材に対する研修
- ④地域識字・日本語教育等の継続的な実施
- ⑤多様なニーズ・習得レベルに対応可能な日本語教室のあり方検討
- ⑥オンライン日本語教室の本格実施・地域日本語教育コーディネーター研修

3 事業の実施体制

(1) 実施体制(図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。)



5	伊東 和子	(公財)大阪YWCA日本語教室会	日本語講師	地域識字・日本語教育コーディネーター
6	川崎 百世	生活の漢字を考える会	日本語講師	地域識字・日本語教育コーディネーター
7	梅元 理恵	(公財)大阪国際交流センター	常務理事兼事務局長	地域識字・日本語教育コーディネーター
8	柴田 亨	社会教育施設識字学級「よみかき茶屋」	コーディネーター	調査・基本方針策定コーディネーター
9	鈴木 暁子	京都府立大学 京都地域未来創造センター	上席研究員	調査・基本方針策定コーディネーター

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

・識字・日本語連絡会との連携

(月1回程度、参加者：大阪府下での識字と日本語、中学校夜間学級に関わる団体や個人など)

大阪府、堺市とも協力しつつ、大阪府下での識字・日本語教室等活動の支援・充実に向けて、情報交換や交流会の実施等に取り組んだ。

・大阪識字・日本語協議会への参加

(年2回程度、参加者：大阪府、大阪市、堺市、識字・日本語連絡会、大阪府人権協会関係者など)

大阪府が実施している識字・日本語施策・事業の内容について報告を行うとともに、今後の方向性等について意見交換を行うことを通して、行政・民間の識字・日本語教育の関連機関との連携・協力を図った。

・外国にルーツを持つこども支援ネットワーク大阪会議(年1～2回程度)

外国にルーツを持つこどもの支援に携わるボランティア・運営担当者が気軽に集まり、顔の見える関係を築き、情報交換・共有、相談の場として開催し、地域で子どもをサポートする体制を強化する目的で開催している。今年度は「こどもひろば」・外国にルーツを持つこども支援ネットワーク参加教室の合同で研修会を実施し、こどもに寄り添った支援や指導の現場について学ぶ機会とした。会議以外にもメーリングリスト等で、教室の情報や外国にルーツを持つこどもやその支援者対象のイベント情報等を共有した。

4 令和5年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	柴田 亨	社会教育施設識字学級モデル教室「よみかき茶屋」	コーディネーター	識字・日本語教室における学習支援・運営の実践者の立場からの意見

2	鵜飼 聖子	こどもひろば	事務局長	識字・日本語教室における学習支援・運営の実践者の立場からの意見
3	鈴木 暁子	京都府立大学 京都地域未来創造センター	上席研究員	学識経験者の立場から、多文化共生や外国人の生活支援等に関する意見
4	丸山 敏夫	大阪市内識字・日本語教室連絡会	代表	識字・日本語教室における学習支援の実践者の立場からの意見
5	梅元 理恵	(公財)大阪国際交流センター	常務理事兼事務局長	多文化共生の実践及び日本語教室運営者の立場からの意見
6	伊東 和子	(公財)大阪YWCA日本語教室会	日本語講師	日本語指導および日本語教室の運営に関する意見
7	川崎 百世	生活の漢字を考える会	日本語講師	学識経験者、実践者の立場から日本語指導、ICTを活用した学習に関する意見
②実施結果				
実施回数	2回			
実施スケジュール	6月 「識字・日本語教育基本方針」の素案(案)について 今後の識字・日本語教育体制の整備について 10月 「大阪市識字・日本語教育基本方針(素案)」にかかるパブリック・コメントの結果概要及び修正案について			
主な検討項目	・「識字・日本語教育基本方針」の策定について ・「基本方針」に基づく識字・日本語教育の今後の取組について ・文化庁補助事業「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」について			
(取組②－1) 総括コーディネーターの配置				
・大阪市において識字・日本語教育施策を中心的に担う教育委員会事務局生涯学習担当と(公財)大阪国際交流センターの担当者を総括コーディネーターとして配置し、事業の総括を行うとともに、関連部局・団体等との連携をはじめ、多様な識字・日本語ニーズに対応するための体制構築に向けて調整を行った。				
(取組②－2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組				
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】				
地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【()】				
・識字・日本語教室での運営・指導・コーディネートの経験のある者や、日本語指導の経験のある者などを地域識字・日本語コーディネーターとして配置し、各教室からの要請等に応じて、教室運営や日本語指導の手法や教材等についての指導・助言を行うとともに、教室の状況や課題を踏まえて、地域の識字・日本語教室のあり方検討を行った。				

(取組②－３) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置 ・調査・推進計画策定コーディネーターを配置し、「大阪市識字・日本語教育基本方針」の策定に向けて、総合調整会議等の意見も反映しながら、方針の内容について、指導・助言を受けた。
【重点項目】
(取組③) 日本語教育に関する基本的な方針に必要な地域の実態調査、基本的な方針の作成 国の基本方針を踏まえ、大阪市の実情に応じた「大阪市識字・日本語教育基本方針」を策定した。策定にあたっては、令和３年度に実施した「識字・日本語教育体制に関する実態・ニーズ調査」の分析結果等を踏まえ、総合調整会議や有識者等との意見を踏まえて素案を作成し、パブリック・コメントを実施した後、成案を確定した。 【スケジュール】 ４～６月 「基本方針（素案）」作成に向けた執筆作業および調整 ６月 素案の内容について総合調整会議・有識者会議で議論、教育委員会議で協議・議決 ７月 パブリック・コメント実施 ８～１０月 パブリック・コメントの意見集約および素案への反映 １０月 「基本方針（最終案）」作成、総合調整会議・有識者会議で議論 １１月 教育委員会議で協議・議決 １２月 市長決裁、成案確定
(取組④) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組 ◎識字推進事業 有識者会議 学識経験者を中心とした識字推進事業有識者会議を開催し、人権や成人基礎教育の保障といった観点から、識字・日本語教育の取組のあり方や「識字・日本語教育基本方針」について意見聴取を行った。 (第１回) 【日 時】 令和５年６月９日（土） １８時～２０時 【場 所】 Web 会議 【参加者】 ６名 【内 容】 ・令和５年度 識字推進事業の取組について ・「大阪市識字・日本語教育基本方針」素案について (第２回) 【日 時】 令和５年１０月２０日（金） １４時～１６時 【場 所】 大阪市立中央図書館 ４階 第１会議室 【参加者】 ６名 【内 容】 ・「基本方針（素案）」にかかるパブリック・コメントの結果概要及び修正案について ・次年度以降の識字・日本語教育施策の充実について

◎識字・日本語パネル展

大阪市内識字日本語教室の学習者・学習支援者のメッセージを記載した「えんぴつポスター」をはじめ、各教室の様子を紹介する写真等を中央図書館ロビーにて展示を行った。

【実施期間】令和5年9月22日（金）～10月4日（水）

【場 所】大阪市立中央図書館 1階エントランスホールギャラリー

【内 容】・学習者・学習支援者のメッセージを記載した「えんぴつポスター」の掲示

・各教室の様子を紹介する写真パネルの掲示

・各教室で作成した文集等の展示

◎識字・日本語教室コーディネーター会議

各教室の運営を中心的に担う識字・日本語教室の運営担当者（コーディネーター）が集まり、教室運営や関係機関との連携等について、情報共有および意見交換を行った。より多くのコーディネーターに会議に参加していただくため、毎回、平日の午前と土曜日の夜間の2回、同じ内容での会議を行った。

（第1回）

【日 時】①令和5年6月24日（月） 18時30分～20時30分

②令和5年6月26日（月） 10時～12時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室

【参加者】①10名 ②13名

【内 容】・「人権の視点に立った識字・日本語教室運営のために」について生涯学習担当より説明

・意見交換（各教室の近況等）

（第2回）

【日 時】①令和5年11月22日（水） 10時～12時

②令和5年11月25日（土） 18時30分～20時30分

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター 第2研修室

【参加者】①15名 ②11名

【内 容】・意見交換（各教室の近況、学習者増への対応等）

（第3回）

【日 時】①令和6年2月14日（水） 10時～12時

②令和6年2月17日（土） 18時30分～20時30分

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室

【参加者】①17名 ②18名

【内 容】・研修会「多様性の理解を深め、よりよい教室を」

講師：時光（多文化共生マネージャー）

・教室運営や活動に関する交流・意見交換

◎識字・日本語教室拡大交流会

ボランティアの支援者としての資質向上や、各教室における取組内容の共有等を目的に、学習支援者の交流・学習の場として拡大交流会を実施した。今回は「自己他者分析」という手法を通して、ボランティア自身が自らを知り、学習者とともに学ぶ視点を得ることで、教室における学習の援助者として力をつけ、充実した教室運営につなげることをめざして研修会を実施した。

【日 時】令和6年1月20日（土）10時～12時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室

【参加者】17名

【内 容】支援者のためのパワーアップ講座「色を通して自分を知ろう」

講師：山下 真知子（大手前大学客員教授）

（取組⑥）日本語教育人材に対する研修

◎識字・日本語交流ボランティア入門講座

識字・日本語教室でのボランティア活動を希望する方を対象に、活動を始める前に知っておきたい事柄や、教室で大切にしていることなどについて学ぶ入門講座を開催した。

（第1期）

【日 時】令和5年5月17日（水）～6月14日（水）全5回 19時～21時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】定員：25名 申込者：25名 参加者：21名

【内 容】

（第1回：5/17）

「識字・日本語教室ってどんなところ？」

～大阪の識字・日本語教室が大切にしてきたこと、大切にしてほしいこと～

講 師：丸山 敏夫（大阪市内識字・日本語教室連絡会 代表）

（第2回：5/24）

「識字・日本語交流ボランティアをはじめる前に～学習者とのかかわり方について考えてみよう～」

講 師：栗本 敦子（Facilitator's LABO（えふらぼ））

（第3回：5/25～6/6）

「教室見学～実際の教室を見に行こう～」

（第4回：6/7）

「教室見学を振り返ろう～社会における教室の役割とボランティアができること～」

講 師：森 実（大阪教育大学 名誉教授）

（第5回：6/14）

「識字・日本語学習支援ってどんなこと？～活動へ一歩ふみだそう～」

講 師：澤田 幸子（合同会社おおぞら日本語サポート）

(第2期)

【日 時】令和5年9月22日(金)～10月20日(金) 全5回 19時～21時

【場 所】大阪市立難波市民学習センター

【参加者】定員：25名 申込者：31名 参加者：22名

【内 容】

(第1回：9/22)

「識字・日本語教室ってどんなところ？」

～大阪の識字・日本語教室が大切にしてきたこと、大切にしてほしいこと～

講 師：丸山 敏夫(大阪市内識字・日本語教室連絡会 代表)

(第2回：9/29)

「識字・日本語交流ボランティアをはじめる前に～学習者とのかかわり方について考えてみよう～」

講 師：内山 唯日(Bridge Project 代表)

(第3回：9/30～10/12)

「教室見学～実際の教室を見に行こう～」

(第4回：10/13)

「教室見学を振り返ろう～社会における教室の役割とボランティアができること～」

講 師：森 実(大阪教育大学 名誉教授)

(第5回：10/20)

「識字・日本語学習支援ってどんなこと？～活動へ一歩ふみだそう～」

講 師：澤田 幸子(合同会社おおぞら日本語サポート)

(第3期)

【日 時】令和6年1月19日(金)～2月16日(金) 全5回 19時～21時

【場 所】大阪市立阿倍野市民学習センター

【参加者】定員：25名 申込者：25名 参加者：24名

【内 容】

(第1回：1/19)

「識字・日本語教室ってどんなところ？」

～大阪の識字・日本語教室が大切にしてきたこと、大切にしてほしいこと～

講 師：丸山 敏夫(大阪市内識字・日本語教室連絡会 代表)

(第2回：1/26)

「識字・日本語交流ボランティアをはじめる前に～学習者とのかかわり方について考えてみよう～」

講 師：北野 真由美(特定非営利法人えんばわめんと堺/ES 代表)

(第3回：1/27～2/8)

「教室見学～実際の教室を見に行こう～」

(第4回：2/9)

「教室見学を振り返ろう～社会における教室の役割とボランティアができること～」

講 師：森 実（大阪教育大学 名誉教授）

(第5回：2/16)

「識字・日本語学習支援ってどんなこと？～活動へ一歩ふみだそう～」

講 師：澤田 幸子（合同会社おおぞら日本語サポート）

◎識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座

現在、識字・日本語教室で活動しているボランティアを対象に、教室の意義やボランティアの役割、日本語学習の支援法や教材作成など、教室活動で役立つ実践的な手法や知識について学ぶ講座を実施した。

(第1期)

【日 時】令和5年7月15日（土）～8月19日（土） 全5回 14時～16時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】定員：20名 申込者：34名 参加者：22名

【内 容】

(第1回：7/15)

「識字・日本語教室の意義とボランティアの役割」

講 師：澤田 幸子（合同会社おおぞら日本語サポート）

(第2回：7/22)

「対話型の活動」

講 師：伊東 和子（大阪YWCA日本語教師会講師）

(第3回：7/29)

「誰もが安心して学べる場とするために～あなたの普通と私の普通～」

講 師：内山 唯日(Bridge Project 代表)

(第4回：8/5)

「全く話せない人との活動」

講 師：伊東 和子（大阪YWCA日本語教師会講師）

(第5回：8/19)

「学習者に寄り添った教材を作ってみよう」

講 師：伊東 和子（大阪YWCA日本語教師会講師）

(第2期)

【日 時】令和5年10月28日（土）～11月25日（土） 全5回 14時～16時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】定員：20名 申込者：32名 参加者：23名

【内 容】

(第1回：10/28)

「生活に必要な漢字とは何か？～生活の漢字と学習支援方法について学ぶ～」

講 師：新庄 あいみ（「生活の漢字」をかんがえる会講師）

(第2回：11/4)

「外国人が学ぶ「外国語としての日本語」①

講 師：矢谷 久美子（日本語教育支援グループ「ことのは」理事長）

(第3回：11/11)

「誰もが安心して学べる場とするために～多様性と特権～」

講 師：内山 唯日(Bridge Project 代表)

(第4回：11/18)

「外国人が学ぶ「外国語としての日本語」②

講 師：矢谷 久美子（日本語教育支援グループ「ことのは」理事長）

(第5回：11/25)

「日本語ボランティアとしてできること～今後の活動に向けて～」

講 師：澤田 幸子（合同会社おおぞら日本語サポート）

◎識字・日本語ボランティアのためのステップアップ講座

現在、識字・日本語教室で活動しているボランティア講師等を対象に、さまざまな人種や属性の視点から、外国人の現状や多文化共生社会における人権問題等について学ぶ研修を実施した。

【日 時】令和6年3月9日(土)～3月23日(土) 毎週土曜日 全3回 10時～12時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【内 容】

(第1回：3/9)

「外国につながる子ども・若者について知ろう」

講 師：藤井 和代(NPO 法人 IKUNO・多文化ふらっと学習支援事業担当者)

定 員：40名 申込者：44名 参加者：38名

(第2回：3/16)

「在日コリアンの視点から考える～差異を尊重する社会に～」

講 師：李 明哲（関西学院大学 非常勤講師）

定 員：40名 申込者：32名 参加者：26名

(第3回：3/23)

「イスラム教徒の日本での生活」

講 師：ガフル里歌（イスラム婦人友の会 会長）

定 員：40名 申込者：44名 参加者：39名

◎しきじ・にほんごカフェ

学習者や支援者など、識字・日本語に関わる人、関心のある人を対象に、情報交換や交流の場として実施した。毎回、日本や外国の文化などに触れるイベントタイムを開催した。

【日 時】奇数月の最終土曜日 14 時～16 時（5/27・7/29・9/30） 14 時～17 時（11/25・1/27・3/30）

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【内 容】

（第 1 回：5/27）

イベントタイム「紙芝居～KAMISIBAI～」を楽しもう！

講 師：山口 文子（大阪市生涯学習インストラクター）

参加者：28 名

（第 2 回：7/29）

イベントタイム「ゆかたを着て写真を撮ろう！」

講 師：山村 昌子・藤沢 安代・萩原 光子・磯村 智美・吉見 弘子

参加者：19 名

（第 3 回：9/30）

イベントタイム「二胡の演奏を聴いて 二胡に触れてみよう！」

講 師：中尾 和俊（大阪市生涯学習インストラクター）

参加者：22 名

（第 4 回：11/25）

イベントタイム「楽しい年賀状を書こう！」

講 師：田中 幹久（日本郵便 PCF アドバイザー）

参加者：48 名

（第 5 回：1/27）

イベントタイム「よみかき茶屋から～さまざまな理由で日本に来た人たちの話を聞きましょう！」

講 師：識字・日本語教室「よみかき茶屋」の皆さん（コーディネーター：山北 守）

参加者：48 名

（第 6 回：3/30）

イベントタイム「おりがみでカードとカードケースを作ろう！」

講 師：大阪市福島区生涯学習推進員の皆さん

参加者： 14 名

◎地域識字・日本語教室での研修会

各地域の識字・日本語教室からの実施希望に応じ、学習支援者（内容によっては学習者も）を対象に、外国人を取り巻く状況や学習支援の手法、人権や多文化共生などについて学ぶ研修会を実施した。

・識字・日本語教室研修会（今川）

【日 時】令和5年7月10日（月）19時～20時30分

【場 所】大阪市立今川小学校 1階 多目的室

【参加者】15名

【内 容】「出入国管理及び難民認定法・改正案について」

講師：田中 恵子（特定非営利活動法人 RAFIQ 代表理事）

・識字・日本語教室研修会（鳴野）

（第1回）

【日 時】令和5年7月19日（水）19時～20時30分

【場 所】大阪市立鳴野小学校 1階 低学年理科室

【参加者】20名

【内 容】「初級レベルの日本語が話せる学習者への学習支援について」

講師：澤田 幸子（合同会社おおぞら日本語サポート）

（第2回）

【日 時】令和5年11月22日（水）19時～20時30分

【場 所】大阪市立鳴野小学校 1階 低学年理科室

【参加者】20名

【内 容】「初級レベルの日本語が話せる学習者への学習支援について」（第1回の続編）

講師：澤田 幸子（合同会社おおぞら日本語サポート）

・識字・日本語教室研修会（日之出）

（第1回）

【日 時】令和5年8月3日（木）19時～21時

【場 所】大阪市立淡路中学校 1階 ふれあいルーム

【参加者】10名

【内 容】「ネット社会における部落問題を考える」

講師：森 実（大阪教育大学名誉教授）

（第2回）

【日 時】令和5年12月7日（木）19時～21時

【場 所】大阪市立淡路中学校 1階 ふれあいルーム

【参加者】15名

【内 容】「ヘタでいい、思いを描こう」

講師：竹内 恵子（絵手紙講師）

阪木 奈穂美（公益財団法人住吉隣保事業推進協会非常勤職員）

(取組⑦) 地域日本語教育の実施			
実施するものに○ 【 】 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育 【 】 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育			
実施箇所見込数	42 か所	受講者数 (実人数)	1,177 人
活動 1	【名称】 にほんごこんにちは（基礎レベルの日本語教室）（既設） 【目標】 日本に帰国・来日された方で、はじめて日本語を学ぶ外国人住民等を対象に、生活上必要最低限の意思疎通が図れる程度の基礎の日本語会話を習得する場として開催 【実施回数】 6 コース（1 回 2 時間×全 20 回） 【受講者数】 184 人 【実施場所】 大阪市内生涯学習センター 【受講者募集方法】 ホームページ、市内生涯学習施設等でのチラシ設置 【内容】 大阪市作成教材「にほんごこんにちは」を活用し、日本語教師が講義形式で指導（第 1 期） 【日 時】 令和 5 年 5 月 19 日（金）～7 月 25 日（火） 毎週火・金曜日 全 20 回 （朝コース）10 時～12 時 （夜コース）19 時～21 時 【場 所】 大阪市立難波市民学習センター 【参加者】（朝コース）定員：30 名 申込者：49 名 参加者：33 名 （夜コース）定員：30 名 申込者：41 名 参加者：28 名 （第 2 期） 【日 時】 令和 5 年 9 月 22 日（金）～12 月 4 日（月） 毎週月・金曜日 全 20 回 （朝コース）10 時～12 時 （夜コース）19 時～21 時 【場 所】 大阪市立阿倍野市民学習センター 【参加者】（朝コース）定員：30 名 申込者：45 名 参加者：33 名 （夜コース）定員：30 名 申込者：45 名 参加者：32 名 （第 3 期） 【日 時】 令和 6 年 1 月 16 日（火）～3 月 26 日（火） 毎週火・金曜日 全 20 回 （朝コース）10 時～12 時 （夜コース）19 時～21 時 【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター 【参加者】（朝コース）定員：30 名 申込者：41 名 参加者：31 名 （夜コース）定員：30 名 申込者：45 名 参加者：27 名 【開始した月】 5 月 【講師】 1 コースあたり日本語教師 2 名		

	【関係機関との連携】 (機関名) 大阪 YWCA 日本語教師会 (連携内容) 日本語教師の派遣、レベルチェックの実施等 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動 2	【名称】 識字・日本語教室 (既設) 【目標】 国際化の進展による新たな外国人住民及びさまざまな理由により義務教育を十分に受けられなかった人など、日本語の読み書き、会話等に不自由している方々に対し学習機会を提供し、社会参加促進を図る。 【実施回数】 1,303 回 (1 回 1.5～2 時間) 【受講者数】 501 名 【実施場所】 市内小・中学校等 【受講者募集方法】 教育委員会、総合生涯学習センターHP、生涯学習施設等でチラシ設置 【内容】 マンツーマン・グループで、交流を通して日本語会話や読み書きを学ぶ。 【開始した月】 4 月 【講師】 327 名 【関係機関との連携】 なし 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動 3	【名称】 オンライン日本語教室 (既設) 【目標】 生活者としての外国人が安心して日常生活や社会生活を送るために必要な日本語を学ぶ、オンラインによる日本語教室を開催。 通える日本語教室が近くにない、子育てや高齢等さまざまな理由で外出や移動に不便を感じ、日本語を学ぶ機会を失い孤立する外国人住民もいることから、文化庁の日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでのくらし」等を活用した日本語を学ぶ機会を提供する。 【実施回数】 1 クール 40 回 (レベル 1・2 各 20 回) × 2 クール (1 回 1.5 時間) 【受講者数】 25 名 (第 1 クール 13 名、第 2 クール 12 名) 【実施場所】 大阪国際交流センター会議室(各クール初回)／オンライン 【受講者募集方法】 (公財)大阪国際交流センターHP、メールマガジン 【開催時期】 第 1 クール：5 月 16 日～10 月 5 日 毎週火・木 10：00～11：30 第 2 クール：10 月 12 日～3 月 14 日 毎週火・木 19：00～20：30 【内容】 レベル 1 (初めて日本語を勉強する人対象)、レベル 2 (ひらがな・カタカナを読むことができる人対象) の 2 クラスを開講。クールごとに開催時間を変え、より多くの日本語学習希望者のニーズに沿った形で開催した。講師補佐として、日本

	語指導の有資格者のボランティアを研修のうえ採用し、ボランティアの養成・活用につなげた。 【講師】国際交流基金関西国際センター 日本語教育専門員 3 名（日本語教師 3 名） ボランティア 20 名（第 1 クール 12 名、第 2 クール 8 名） ・オンライン日本語教室活動ボランティア研修会 日本語指導資格を持ち、教室でのメイン講師の補佐を希望するボランティアを対象に、指導方法や教材の活用事例などを通じて、教室運営のノウハウやスキルを身に付ける講座を実施した。 【開催時期】 ①第 2 クール活動ボランティア対象 令和 5 年 9 月 12 日、14 日、19 日、21 日【全 4 回】 ②令和 6 年度第 1 クールボランティア対象 令和 6 年 3 月 19 日、21 日、26 日、28 日【全 4 回】 【受講者数】①12 名 ②8 名 【講師】第 2～4 回：国際交流基金関西国際センター 日本語教育専門員 3 名 【内容】「つながるひろがる にほんごでのくらし」やオンライン学習サイトの活用方法、カリキュラムに沿った日本語学習指導方法、授業シミュレーション ・オンライン日本語教室メイン講師養成研修会 講師補佐ボランティアの中から特に指導方法に優れた者を対象に、令和 6 年度メイン講師として活動するための指導方法等を身に付ける講座を実施した。 【開催時期】令和 6 年 1 月 22 日、26 日 【受講者数】令和 6 年度メイン講師候補者 4 名 【講師】国際交流基金関西国際センター 日本語教育専門員 2 名 【内容】メイン講師としての教室の進行・Zoom 操作、準備、心構え等 【関係機関との連携】国際交流基金関西国際センター（講師派遣、カリキュラム等協力） 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動 4	【名称】こどもひろば（既設） 【目標】大阪に暮らす外国人の増加とともに、保護者の少なくとも一方が外国人である、いわゆる”外国にルーツをもつ子ども”が増加している。こうした子どものうち、母国で中学校を卒業した後に渡日した子どもたち（ダイレクト）については、学校教育の対象外とされているのが現状である。また、外国にルーツを持つ子どもについては、家庭で日本語以外の言語が使用される場合が多く、自身のアイデン

	ティティについて悩むことも少なくない。日本語学習についても、子どもの日常生活に沿った内容での支援が必要であるが、成人対象の教室と比べ、子ども対象の教室は少なく、日本語の支援を受けることができる場も十分にあるとはいえない状況である。 こうした子どもに対して、学校を含む生活全般で使う日本語を学ぶ場を提供し、日本人の子どもと同じように、安心して快適な生活が送れるよう、コーディネートを行った。また支援に携わるボランティアについては、対象児童に向けた効果的な日本語指導の方法について研修を実施し、ボランティアの資質向上を図った。 【実施時期・回数】 ・こどもひろば（ダイレクトを主な対象） 全 78 回（日本語補習含む）1 回 3 時間程度 （開始した月）4 月 ・こどもひろばダイレクト対象日本語教室「みらい」 全 91 回 週 1 ～2 回、1 回原則 120 分 （開始した月）7 月 【受講者数】（こどもひろば） 87 名、（みらい） 13 名 【実施場所】 大阪国際交流センター会議室/オンライン ※「みらい」については、原則対面での実施であるが、講師および学習者の都合により一部オンラインにて開催した。 【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、Facebook、区役所、図書館、生涯学習施設、地域日本語教室、教会等にチラシ設置 【内容】「こどもひろば」では、日常生活、学習に必要な日本語を学び、子どもの日常や学校生活の充実につなげる。教室については、ボランティアが協働し運営するとともに、母国で中学校を卒業して来日するいわゆるダイレクトの子どもたちについては、その日本語能力に応じた日本語習得を支援した。 参加者の支援の現場を支える人材の育成を図るため、令和 3 年度に採用したコーディネーター（有償ボランティア）を中心に教室がより持続的・自律的に運営できるよう支援した。 また令和 4 年度に引き続き、日本語学習の場や機会の乏しいダイレクトが、日本語を体系的に学べるよう、日本語教師の有資格者による日本語教室「みらい」を開催した。 【講師】 （こどもひろば）コーディネーター 4 名、ボランティア 52 名（うち日本語教師 0 名） （みらい）講師 6 名（うち日本語教師 4 名）（講師兼アシスタント 2 名含む） アシスタント 8 名（うち講師兼アシスタント 2 名含む）
--	---

	・「こどもひろば」・「外国にルーツをもつ子ども支援ネットワーク大阪」研修会 【開催時期】令和5年9月18日（月・祝）18：30～20：30 【実施場所】大阪国際交流センター 2階 会議室C・D 【参加者】20名 【講師】榎原 智子氏（「日本語教育支援グループ ことのは」、 （公財）吹田市国際交流協会 日本語講師） 【内容】外国にルーツを持つ子どもに対する日本語初期指導について、実際の活動経験を共有し、教材「きいて まねして はなして」を使った教え方を共有した。 ・ダイレクト向け日本語教室「みらい」講師養成のための研修会 【開催時期】第1回 令和5年9月27日（水）15：30～17：30 第2回 令和5年10月6日（金）15：30～17：30 【実施場所】大阪国際交流センター 3階 会議室1・2 【参加者】第1回 13名、第2回 11名 【講師】第1回 鶴飼 聖子氏（こどもひろば 事務局長） 第2回 榎原 智子氏（「日本語教育支援グループ ことのは」、 （公財）吹田市国際交流協会 日本語講師） 【内容】 第1回 外国にルーツをもつ学齢超過の子どもたち（ダイレクト）への支援と日本語 ～「みらい」実施の意義～ 第2回 子どもに向けた実践的な日本語初期指導について（ワークショップ） 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動5	【名称】生活日本語コース（既設） 【目標】外国人住民が、市民同様に快適に安心して生活できるよう、最低限必要な日本語の会話能力の習得と、日本語の理解を高めることを目的として、（公財）大阪国際交流センターと独立行政法人日本学生支援機構大阪日本語教育センターとの共催で、大阪日本語教育センターの講師が指導する、生活日本語コースを運営した。 【実施日】 春コース：令和5年4月24日～7月7日【52日間】 夕方クラス 上記期間の火・木【21日間】 秋コース：令和5年8月28日～11月10日【50日間】 夕方クラス 上記期間の火・木【21日間】 冬コース：令和5年11月27日～令和6年2月29日【52日間】 夕方クラス 上記期間の火・木【22日間】

	【実施回数】 ＜平日日中のクラス＞ ・1クール 2h×5日×10週＝100時間（平均）6クラス×3期 ＜夕方クラス＞ ・1クール 2h×2日×10週＝40時間（平均）1クラス×3期 【受講者数】参加者（一般）：275名、参加者（ウクライナ）：17名 【実施場所】日本学生支援機構 大阪日本語教育センター/オンライン 【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、チラシ掲示、大阪日本語教育センターHP等 【内容】平日日中に集中的に学習するコースと、日中に受講が難しい学習者のための週2回の平日夕方のコースを開催した。プロの日本語教師の指導のもと、生活に必要な日本語を短期間で集中的・効果的に身に付けていただく機会とした。またいずれのコースも原則、対面での授業とし、ニーズがあった各コース1クラス（午前の中上級）のみ、オンラインによる遠隔での授業を行った。さらに、すべてのコースにおいて、人道的支援の観点から、ウクライナ避難民も受け入れた。 【講師】24名（日本語教師） 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動6	【名称】仕事のための実践日本語（既設） 【目標】生活者としての外国人が大阪で仕事をするために必要な日本語や、企業文化等を実践的に学ぶ機会としての日本語教室を開設。就職活動に必要な履歴書の書き方や面接の受け方についての講座を開講、日本ですでに仕事をしている外国人、またはこれから就職/転職を希望する外国人が、希望通りの仕事を得て組織の中で日本人に交じって仕事がスムーズにできるよう支援した。 【実施回数】 ○仕事のための実践日本語教室 1期15回×3期＝45回（1回 90分） ○就職のためのアドバイス講座 1期2回×3期＝6回（1回 90分） 【受講者数】53名（第1期15名、第2期20名、第3期18名） 【実施場所】大阪国際交流センター会議室 【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、Facebook、区役所、図書館、生涯学習施設、地域日本語教室、教会等にチラシ設置 【内容】 ○仕事のための実践日本語 企業などでの就業経験を持ち、日本語教師の資格を持つ講師が、オリジナルテキスト

	を活用し、名刺の渡し方や電話の取次ぎ、メールの書き方など、日本で仕事をする上で必要な日本語や日本での慣習やスキルも含めて指導した。また日本語指導資格を持つ有償ボランティアが講師補佐として参加し、ロールプレイの補助等で活動してもらうことにより、より効果的な授業を実施することができた。 ○就職のためのアドバイス講座 企業から定年退職をした経験豊かな講師を迎え、日本での就職面接の心得、履歴書の書き方などを、個別指導や模擬面接を含め指導した。 【実施時期】 第1期：令和5年5月13日～7月8日【毎週土曜午前】 第2期：令和5年9月2日～10月28日【毎週土曜午前】 第3期：令和6年1月13日～3月9日【毎週土曜午前】 【講師】 日本語教師 2名、講師補佐ボランティア 3名（うち日本語教師0名） 【関係機関との連携】大阪外国企業誘致センター（O-BIC）と共催。また各期、大阪府警察本部からの申し出により、授業後に防犯講座を開催。 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動7	【名称】ウクライナ避難民向けオンライン日本語講座（既設） 【目標】中長期的な滞在に伴い、困難を感じることなく生活するための日本語習得を目指し、地域住民との交流や、就業、就学など、安心して地域社会の一員として生活できる環境を確保する。 【実施回数】 平日コース（火・木） ①令和5年5月23日～7月13日【全16回】（1回 100分） ②令和5年9月19日～11月9日【全16回】（1回 100分） ③令和6年1月9日～2月29日【全16回】（1回 100分） 土曜日コース ④令和5年5月27日～9月9日【全16回】（1回 100分） ⑤令和5年10月7日～2月10日【全16回】（1回 100分） 【受講者数】22名 【実施場所】オンライン（Zoom） 【受講者募集方法】ウクライナ人コミュニティ登録者に案内 【内容】ウクライナ避難民（日本語0初級者、学び直し希望者）を対象に、会話を中心とした場面ごとの日本語指導を行った。 【講師】2名（日本語教師2名） 【関係機関との連携】日本学生支援機構大阪日本語教育センターの協力により講師の紹介 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし

(取組⑧～⑮) その他の取組
取組なし
2. 市区町村の日本語教育の取組への支援
(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育
取組なし
(取組②) 取組 1 以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育
取組なし

5 主要な取組の実施状況

令和5年4月	識字・日本語教室（通年）、こどもひろば（通年）、 しきじ・にほんごカフェ（奇数月）、生活日本語コース（春コース）
5月	基礎レベルの日本語教室（第1期）、識字・日本語交流ボランティア入門講座（第1期） オンライン日本語教室（第1クール レベル1）、仕事のための実践日本語（第1期） ウクライナ避難民向けオンライン日本語講座（①平日コース④土曜コース）
6月	総合調整会議（第1回）、識字推進事業有識者会議（第1回） 識字・日本語教室コーディネーター会議（第1回）
7月	識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座（第1期） オンライン日本語教室（第1クール レベル2）、こどもひろば「みらい」
8月	生活日本語コース（夏コース）
9月	基礎レベルの日本語教室（第2期）、識字・日本語交流ボランティア入門講座（第2期）、 識字・日本語教室パネル展、仕事のための実践日本語（第2期） オンライン日本語教室（第2クール）ボランティア研修会 「こどもひろば」・「外国にルーツをもつ子ども支援ネットワーク大阪」研修会、 「みらい」講師養成のための研修会 ウクライナ避難民向けオンライン日本語講座（②平日コース）
10月	総合調整会議（第2回）、識字推進事業有識者会議（第2回） 識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座（第2期） オンライン日本語教室（第2クール レベル1） ウクライナ避難民向けオンライン日本語講座（⑤土曜コース）
11月	識字・日本語教室コーディネーター会議（第2回）、生活日本語コース（冬コース）
12月	

令和6年1月	基礎レベルの日本語教室（第3期）、識字・日本語交流ボランティア入門講座（第3期） 仕事のための実践日本語（第3期）、オンライン日本語教室（第2クール レベル2）、 メイン講師養成研修、ウクライナ避難民向けオンライン日本語講座（③平日コース）
2月	識字・日本語教室コーディネーター会議（第3回）
3月	識字・日本語ボランティアのためのステップアップ講座、 オンライン日本語教室（令和6年度第1クール）ボランティア研修会 下旬 事業終了、実績報告書の提出

6 評価と検証

1. 令和5年度の計画の評価と検証方法	
【令和5年度の目標】（再掲） ・「識字・日本語教育基本方針」の策定 ・日本語学習ニーズに対する対応方策（ICT活用を含む）および識字・日本語学習環境の拡充に向けた検討 ・識字・日本語教室に対する支援の充実や人材養成 ・就労者に対する日本語教育のあり方検討 ・識字・日本語教育施策の推進に向けた体制の整備	
【令和5年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】 大阪市における識字・日本語学習体制の現状と課題を踏まえ、上記目標の達成に向けて、下記の内容に取り組む。 ①「識字・日本語教育基本方針」の策定に向けたパブリック・コメントの実施・成案化に向けた検討 ②識字・日本語学習体制の充実に向けた具体的取組のための予算確保に向けた調整 ③識字・日本語教育人材に対する研修 ④地域識字・日本語教育等の継続的な実施 ⑤多様なニーズ・習得レベルに対応可能な日本語教室のあり方検討 ⑥オンライン日本語教室の本格実施	
【指標1：定量評価目標】 識字・日本語ボランティア入門講座の受講者数および受講修了者のうち識字・日本語教室の活動に実際に参加した割合 ○目標値 受講者数：募集定員の80% [R4年度実績 105.3%（定員：75人 受講者：79人）] 活動参加割合：受講者数の50%（R4年度実績：26.6%）（参加が把握できたもののみ） ○実績値 受講者数：募集定員の89.3%（定員：75名 受講者：67名）] 活動参加割合：受講者数の32.8%（受講者：67名 活動参加者（確認できたもの）：22名）	

【指標 2：定性評価目標】

- ①「識字・日本語教室に参加することで、日本語が前より上手になった」と感じる割合
②「識字・日本語教室に参加することで、前より日本で暮らしやすくなった」と感じる割合
- 目標値 各項目とも 80%以上 (R4 年度実績 ①93.5% ②88.3%)
○実績値 ①「日本語が前より上手になった」と感じる割合：95.9%
②日本で暮らしやすくなった」と感じる割合：91.8%

【指標 3：定量評価目標】

オンライン日本語教室への参加者数および満足度

- 目標値 参加者数：171 名（各クール受講者がレベル 1・2 通しての受講を想定）
アンケート満足度 80%以上（前年度実績：測定なし）
○実績値 参加者数：のべ 562 名 アンケート満足度：92%

【検証方法】

- ・指標 1 については、事業ごとの参加者数の把握およびその後の活動参加について追跡調査する。指標 2 については、識字・日本語教室に参加している学習者に対してアンケートを実施。指標 3 については、事務局での人数集計及び各クラス終了後にアンケートを実施した。

2. その他、令和 5 年度事業の評価と検証方法

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組 4】識字・日本語教室の運営担当者との情報交換・連携の機会の実施

- （定量評価）識字・日本語教室コーディネーター会議への各教室運営担当者の参加者数
今年度目標 のべ 75 名（年間 3 回開催）[R4 年度実績：のべ 69 名（年間 3 回開催）]
今年度実績 のべ 84 名（年間 3 回開催）
（検証方法）事務局による人数集計

【取組 7】初級日本語学習者に対する学習環境の提供

- （定量評価）「基礎レベルの日本語教室」への参加者数（定員：30 人×6 コース）
今年度目標 108 名 [R4 年度実績：182 名] 今年度実績 184 名
（定量評価）「生活日本語コース」への参加者数（定員：12 人×21 コース）
今年度目標 180 名（R4 年度実績：参加者（一般）：216 名、参加者（ウクライナ）：40 名）
今年度実績 292 名（参加者（一般）：275 名、参加者（ウクライナ）：17 名）
（検証方法）事務局による人数集計

【取組 7】仕事のための実践的な日本語学習機会の提供

- （定量評価）「仕事のための実践日本語」参加者数（定員：15 名×3 クール）
今年度目標 38 名（R4 年度実績：43 名） 今年度実績 53 名
（検証方法）事務局による人数集計

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望
(1) 検証を踏まえた課題 令和5年度は、新型コロナウイルスの影響によりいったん減少していた外国人住民人口が急激に増加しており、それにとまって識字・日本語学習機会に対するニーズも高まっている。「基礎レベルの日本語教室」への定員を大きく超える応募や地域の識字・日本語教室への参加希望等の急増などにより、学習機会への受け入れが困難となるケースや、学習支援者（ボランティア）の不足といった課題が生じており、識字・日本語学習環境の拡充が急務となっている。合わせて、安定的な学習機会の運営に向けて、教室活動を担うコーディネーターや学習支援者（ボランティア）等の人材養成、各教室の運営支援などを行っていく必要がある。 また、「大阪市識字・日本語教育基本方針」については、パブリック・コメントを実施し、多くの意見が寄せられ、それらを反映した形での修正や調整を行っていたことから、当初の予定よりは遅れたものの、令和5年12月に策定を完了することができた。 (2) 今後の展望 今後は、「大阪市識字・日本語教育基本方針」の方向性に基づき、学習機会の充実や人材養成、教室運営支援等に取り組む。令和6年度については、日本語がほとんど話せない方を対象にした入門・基礎レベルの日本語学習機会の拡充を行うとともに、中学校夜間学級と連携した学習機会のモデル実施等に取り組む。 また、基本方針の策定に向けた検討を進める中で、施策展開における役割分担の整理等について具体的な議論を行った。引き続き、ネットワークをより拡充し、大阪市の識字・日本語施策における総合的な体制づくりに向けて、引き続き有機的な連携に向けた取り組みを進めるとともに、人材育成や事業の実施において、具体的な役割分担や連携強化についての議論を深めていく。
2. その他、課題と困難な状況への対応方法等
(1) 課題と困難な状況への対応方法 令和5年12月に「識字・日本語教育基本方針」の策定を完了し、今後の具体的な施策について検討を行う中で、識字・日本語学習を必要とする対象の属性が多岐にわたるとともに、それぞれが抱えるニーズや課題も異なることが明らかになってきている。例えば就労者に対する日本語教育の進め方の整理や、未就学や高校生、ダイレクトなど、義務教育外の子どもに対する日本語教育の実施など、実際に識字・日本語教育関連の事業を実施している部局だけでは解決が困難な課題も多く、この間の総合調整会議等でも、有識者からは、より幅広い部局の関与の中で、全市的に取り組むべきものとの意見も出されている。これらの課題を踏まえて、令和5年度より、多文化共生や福祉、こども施策、区役所といった多様な部局で構成する「識字・日本語教育施策推進部会」を立ち上げ、課題解決に向けた具体的な方策や役割分担・連携について検討を行っている。引き続き、より幅広い関連部局の参画を得ながら具体的な検討を行うとともに、本市以外の関連機関との連携を深めていく。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
1-④	識字・日本語パネル展
 The photograph shows a spacious exhibition hall with a high ceiling and modern lighting. The floor is covered with a geometric patterned tile. On the left, there is a long table. The main area is filled with numerous colorful panels, each displaying a different character or word. These panels are arranged in rows and columns. In the foreground, there are several glass display cases on orange bases, containing various items. The background shows more panels and a large window with a green exit sign above it.	
1-⑥	識字・日本語交流ボランティア入門講座
 The photograph depicts a classroom or lecture hall. A man wearing a face mask and a patterned shirt stands at the front of the room, holding a microphone. He is addressing a group of people seated at long tables. The students are seen from behind, sitting at blue chairs. The room has a dark blue curtain in the background and a wooden wall on the right side. The lighting is focused on the front of the room.	

1-⑦-1	にほんごこんにちは（基礎レベルの日本語教室）
	
1-⑦-4	こどもひろば ダイレクト向け日本語教室「みらい」
	

【参考資料一覧】（令和５年度以降は、主要な成果物（報告書、教材等）に限る。）

取組番号	資料名	NEWS 掲載
1-③	大阪市識字・日本語教育基本方針	